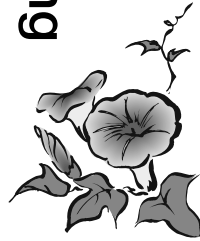


洛友会会報

京都大学電気系専攻内
洛友会
〒615-8510
京都市西京区京都大学桂
075-383-7014
www.rakuyukai.org

Think About the End Before the Beginning



東京支部支部長 向井利典 (昭41年卒)



ここ数年、個人情報保護法の施行とも関連して、洛友会は大きな変革の過程にあります。東京支部においては、特に若手会員の参画意識の向上策として講演会の開催や勉強会の立上げなどに力を注いできました。また、従来から卒業年次毎に学年幹事を設けていますが、今年度に入り、全ての年次の学年幹事が選定されました。洛友会支部活動行事の通知などは、支部幹事からの連絡だけでなく、

親しみのある同期の学年幹事からも個人ベースで知らせ、参加促進を呼びかけています。このようにして、それまで減少傾向にあった会費納入率の低下に歯止めをかけ、支部活動への関心も徐々に回復気味になりつつありますが、今後の活性化に向けて先輩会員には引き続きご指導いただくとともに、若手会員には気軽に支部活動行事にご参加いただき、あるいはまた、学年幹事等を通じて積極的なアイデアをご提供いただければ幸甚であります。なお、ご参考までに、東京支部のホームページは <http://www.rakuyukai.org/tokyo/> にあります。

さて、標題の言葉はイタリアのルネサンス期を代表する偉人レオ

ナルド・ダ・ヴィンチが言ったとされています。レオナルドは、本業の有名な画家としてだけでなく、科学技術の広範な分野に足跡を残した万能の天才でありましたが、この言葉は「システムズ・エンジニアリング」(Systems Engineering、以下、SEと称する)の真髄を表すものと紹介されています。なお、SEを日本語に直すと「システム工学」となるのでしようが、デジタルで検索すると38万件余りにヒットします。ハード、ソフトにかかわらず、何か新しいものを開発しようとするとき、システムという捉え方によりエンジニアリングを考えるのは重要な事です。そのため、このように多くの場面で使われているのでしようが、全てが本来の定義に則って正しく使われているのかどうか？

一方、英語のままに検索すると、6万4千件ほど、その2番目に INCOSE (International Council on Systems Engineering) があります。が、そのホームページに本来の定義が載っています。そもそも、SE というのは、米国で宇宙開発が始まった頃に生まれたもので、これまで無いものを開発するため、のエンジニアリング/マネジメントの手法として考え出されたものを体系化したものであり、その集大成がアポロ計画と云われています。

ですが、今もなお、新たな手法などの研究や様々な分野の開発への適用が活発に行われています。

SEの本質は、開発開始に先立って行うべき顧客のニーズと要求される機能の定義、即ち、要求分析にあるわけですが、これが正にレオナルド・ダ・ヴィンチの言葉につながります。しかし、本当に良いシステムを作るための「顧客のニーズの分析」というのは、そう単純ではありません。何か新しいものを開発しようとするとき、それはプロバイダー指向ではなく、ニーズ指向、即ち、真の顧客を見つければ、あるいはまた、顧客自身が気付いてない真の要求を導出することがこれからの時代に最も必要とされている事と思います。

この事は昨年の東京支部総会における千本倅生氏の講演を聞いた時や CIEE No. 18の安井敏雄氏の論文を読んで感じた事とも相通じますが、偶々、お二人とも我が同級生です。また、洛友会長が前京大総長の長尾真先生であり、長尾先生に引き続きいて(実際は、現総長の尾池先生を間に挟んで)松本紘先生が10月からの次期京大総長に選定されましたが、他にも多士済々、お互いに偶然の運命的なものといえ、洛友会という輪の中で人と人とのつながりを大切にしていけることが会員諸氏にとっても

得るところが大きいと思います。これからも洛友会の活性化に貢献していただくようお願いいたします。

教室だより

松本 紘 理事・副学長、次期総長に選出

新聞各紙ですでに報道され、京大HPでも伝えられていますように、松本 紘 理事・副学長が5月23日、京大次期総長に選出されました。松本先生は昭和40年に電子工学科をご卒業後、工学部助手等を経て昭和62年超高度層電波研究センター教授にご就任。平成16年4月に発足した生存圏研究所の初代所長に就任され、平成17年10月からは理事・副学長(研究・財務担当)を務められています。長尾真前総長に次いで電気系教室出身の総長ということになります。任期は今年10月から6年間です。

教員の異動

配置換 (平成20年5月1日付)
・電気工学専攻
佐藤宣夫助教(引原研)
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、松重研より
転出 (平成20年6月1日付)

・通信情報システム専攻
牧 淳人准教授(松山研)

東芝(欧州研究所)

昇任(平成20年6月1日付)

・エネルギー応用科学専攻

白井康之教授(アロセスエネルギー学) 准教授より

会員寄稿

福井県について

中途半端な位置にある地元民
満足度No.1な福井県の魅力?」

宮川 博尚

(平8年卒・北陸支部)

私がかつて育ち、また今再び住んでいる福井県。知名度が低く

(かつて知名度が低めだった宮崎県は知事の活躍ですっかり有名になってしまい羨ましいです)、福井県って東北の?と、福島県と間違われるのはよくあること、そんな福井県の知名度アップを図るべく、せっかく頂いたこの機会に、福井県について少し私見を書いてみます。

まず福井県はどこにあるのか。本州のほぼ真ん中辺り、京都府、滋賀県、岐阜県、石川県に隣接しています。日本の真ん中にあり、主要都市(大阪、名古屋)から割と近く、でもJR普通列車は直通していない、東京からも日帰り可能

な距離、でも新幹線も羽田直行便も無い、と大変「中途半端」な距離にあります。行政管轄は省毎に異なり、エネルギーは中部経済産業局(名古屋)北陸支局(富山)、通信は北陸総合通信局(金沢)、道路は近畿地方整備局(大阪)、農業は北陸農政局(新潟)、企業の営業管轄も大阪だったり名古屋だったり、あるいは金沢、富山だったりと、中部であり北陸であり近畿でありと不確定。福井県を構成する旧越前国(もう1つの若狭国は明らかに近畿ですが)は正にちようど近畿中部北陸の3地域の境なので、昨今の道州制論議でも何処に入れるのか、案によってばらばらです。

そんな福井県を、標語好きな某お役所は「生活満足度日本1」と表現しています。実際、福井県は住む者にとって非常に恵まれた環境です。自然環境、水、食材に恵まれ、公共施設も買い物場所もそれなりにあり、田舎なので家は広く(おせっかいな人が多いから)治安も良く、共働いと3世代近居・同居が多いので貯蓄も出来て子育て環境にも恵まれて、と良いこと尽くし、だから所謂「暮らし満足度指標」は全国トップクラス。それに主要都市から中途半端な距離にあるという点はメリットでもあり、地元が無い遊び場や買い物

場所も、ちょっと都会に出かければ事足りる。ですが、暮らし満足度調査でも触れられることはなく、そして地元民自身も多分気が付いていない点、これは福井県(特に北部(嶺北地方・旧越前国から敦賀を除いた領域)の人々が、「自分達が満足しているからそれでいい」と無意識のうちに思っているフシがあること。私はこれを、お役所の標語をもじって「地元民満足度No.1」と表現できると思います。実際、福井県嶺北地方を訪れる観光客は少ないです。食材、景色等の素材には魅力があるのに客は少ない、PR下手と分析されることが多い様で、地元民もそう思っている様ですが、思うに、そもそも地元民には本気でPRする気が無い、もし客が沢山来れば名所や店は混雑するし道は渋滞する電車は混むし邪魔で、むしろ客は少なく自分達が満足出来ている今の状況が良い、と思っているに違いありません。だから観光客など他所の人への配慮という概念が根本的に欠けている気がします。例えば交通機

関では、公共交通の路線、ダイヤは地元民の通勤通学向けにしか最適化されておらず、観光には不便なことが多い(県外の友人に観光案内するにも鉄道など公共交通では難しく、結局自分の車でご案内

するしか方法が無いという始末)、でも地元民は観光にはマイカーばかりだから困っていないとか、片側2車線道路で右車線が事実上右折レーンになっている場所が多々あり、地元民がその場所です右折したいからそうなるんですが、当然、案内標識の設置は無く、でも地元民はみんな事実上右折レーン場所を知っているから困らない、しかし他所から来た方は右車線を走っていて、その場所に至って初めて分かり困るとか。京都で運転免許を取った私も地元に戻った頃は相当悩まされました(京都では左車線には路上駐車、原付、市バス、タクシーが多いので、片側2車線道路は右車線を走る癖がついていた)。でもこれらは行政や交通事業者の問題以前に、そもそも地元民の「自分達が使えればそれで良い」という感覚が、交通インフラをそのように最適化してしまう結果とも思えます。

そんな「地元民満足度No.1」福井県には、さまざまな美味しいもの、しかも地元民しか知らないものも多種あるのが魅力です。そんな中から私の好きなものをいくつか紹介します。しかしこれら(特に酒)は、「地元民の必要を満たす程度の少量しか生産されていない」ため、皆様ぜひ福井に来て堪能してください。なお県内の公共交通は

前述のとおり貧弱ですので、福井駅でナビ付レンタカーを借りることをお勧めします。また2車線道路は基本的に左車線を走行しましょう。

・水：嶺北地方は白山を抱えるため良い水に恵まれています。嶺南地方(旧若狭国および敦賀)にも名水がたくさんあり、有名なのは上中の瓜割(瓜が割れるほど冷たいのだとか)、また奈良東大寺のお水取りという行事があります。東大寺へ水を送る「お水送り」は、嶺南の小浜で行う行事です。小浜から送った水を奈良で受け取るのが「お水取り」。水が美味しいので米も美味しい、米に限らず食材は何でも美味しい、そして酒も美味しい。

・米：世間では誤解されていますが、日本の米の最高峰「コシヒカリ」は、福井県農業試験場が開発した品種です。ですから当然、福井県での栽培に最適化されており、福井県産のコシヒカリは最高に美味しい、新潟の方には申し訳ないですが、魚沼産なんて目じゃありません。

・そば：そばの名産地というのは、そもそも寒くて土地が痩せていて米が取れないから蕎麦を作る土地が多いですが、福井の場合は米も作れるし蕎麦も作れます。蕎麦はどの店で食べても

前述のとおり貧弱ですので、福井駅でナビ付レンタカーを借りることをお勧めします。また2車線道路は基本的に左車線を走行しましょう。

美味しい、平均レベルが高いです。この地方独特の食べ方は「おろしそば」。冷たいそばに、ねぎ、鰹節、大根をかける、特に大根は汁をたくさんかけます、大根は消化に良いので正に健康食（他所の土地にもおろしそばありませんが、大根汁をあまり重視してはいけません）。

かに（ズワイガニ、セイコガニ）：坂井市三國で上がるものが最上級、毎年皇室に献上されます。雄のズワイガニは見栄えするし、県外でも食べることは可能でしょうが、でも実は雌の小さいセイコガニが良いのです、なかなか県外では食す機会はありません。私は実はカニはあまり好きでは無いのですが、でも三國の民宿で食べたカニは美味しかった、良いものは美味しい。
 ・ふぐ：主に嶺南地方（旧若狭國および敦賀）。個人的にはカニよりも好き、民宿でフグ刺しから始まりフグ雑炊に至るフグ尽くしなんて最高です。個人的には忘年会はカニよりもフグ！
 ・酒：良い水と冬の冷えこみがあり、酒造りに恵まれた条件の福井では、酒は基本的にどれもレベルが高い、どれも美味しいです。しかし小規模の蔵が多く、県外で入手可能なのは「黒龍」（永平寺町松岡）、「一本義」（勝山

市）くらいでしょうか、でも生産量が少ないということは手抜きが無く丁寧な造りのものばかりです。私のお気に入りには「白岳仙」（福井市）と「花垣」（大野市）。「花垣」は「」のファーストクラスで提供されると聞いたことがあります（乗ったことが無いので分かりません）。「白岳仙」は昔は無名だったのが（実は私は京都の酒屋「六條名酒館タキモト」主宰の日本酒会で知りました）今はすっかり有名になってしまい、あちこちの店で供されるようになったのが、ちょっと寂しい、でも美味しいです、一番のお気に入り。

困む会について

望月 和之

（平14年卒・中国支部）

この3月、私は卒業して4年が経ちました。この4年の間で、世の中の場合も随分と変わりましたが、私の方も学生時代とは一変した新生活をスタートさせ、新鮮な経験もしましたので、今回はその中からご紹介したいと思います。この4年で就職事情は様変わりし、学生の売り手市場となってきましたようですが、私の卒業当時はまだまだ就職氷河期であり、周りには就職したくてもできない同世代

たちがたくさんおりました。私も数社の企業説明会に参加させていただきましたが、「応募者はたくさんおられます」風の説明もいくつかあったのを覚えております。そのような中で私は、ご縁あって、中国地方の企業に行くことになりました。

平成16年4月から3ヶ月間の研修生活を経て、平成16年7月、岡山で社会人生活がスタートしました。それまで京都・大阪から出たことのない私にとっては、ここの生活は、新鮮で充実した毎日でした。当時の私の仕事はというと、送電線の保守であり、地上数十mの高さにある幅数cmの鉄鋼の上での作業や、幅数cmの鉄鋼に乗っての作業というのも経験しました。もともと高い場所に行く足がすぐむ方だったので、やればできるんやなと自分の事ながら感心しました。もちろん今でも高いところは苦手ですが、そうこうしているうちに、偶然、大学時代の友人とネット上で再会しました。平成18年の初夏のことだったと思います。社会人になってからというもの、同級生と交流する機会があまりなかったのですが、これをきっかけに連絡を取り合うようになりました。その中で、やはりネット上だけでなく定期的

平成19年2月に1泊2日で岡山県蒜山・湯原地方への旅行を計画・実行しました。

旅行当日は、10時にJR岡山駅集合。岡山ICから山陽自動車道・岡山自動車道を経て、途中、霧で有名な高梁SAでの休憩を挟んで、蒜山ICへ。目指すは蒜山ジャージーランド。初日の昼食は、公募によりチーズフォンデュ。チーズをパンや温野菜からめながらおいしくいただいていた折、メンバーにチーズ嫌いの人がいたことが判明しました。しかし、とびきりのチーズに出会い、彼もチーズのおいしさに触れて感激していた様子でした。食後は、「広大な蒜山高原の中で手を腰に据え、新鮮なジャージー牛乳を飲み干したい」という強い要望があったので、広々ならかな山裾で多数のジャージー牛が見守る中、皆まるで学生時代に戻ったかのような飲みっぷりを見せ合いました。そんな風に蒜山の自然を満喫した後、本日の宿、湯原温泉へ。

湯原でチェックインをした後、まだ日暮れまで間があったので、温泉街の散策に出掛けました。その後、食事、温泉と、いつでも眠れる体制を整えた後、今回の旅のメインである宴の始まり。この宴の中で企画として、各人、今一番考えていることを手短かに話す、

という課題を事前に与えていました。気軽な感じでやってみようということになったのですが、意外と難しかったように思います。しかし、自分が今何を一番考えているか、という問いを通じて、現状に甘んじることなく未来を見据え、自己の成長に励む彼らの一面を知ることができました。

2日目の朝、名物砂湯を見学した後、北房を通って、満奇洞へ。ここは、与謝野晶子が「奇に満つ」と詠ったことから命名されたともいう洞窟で、中に入ると、他の観光客がほとんどおらず、ほぼ貸切状態。広いところや狭いところ、滝や池など変化に富んでおり、自然が創り出した奇を堪能しました。昼食は、参加者特製のそば。そば打ち体験に行ってきました。皆初めての体験でしたが、店のおやじさんの気持ちの良い指導のおかげで、おいしいそばができあがりました。
 旅の締めくくりは、吉備津彦神社。そこでは偶然ボランティアの方による桃太郎伝説にまつわる話も聞くことができました。「当時吉備の国を治めていた豪族の力を恐れた朝廷が吉備の国を滅ぼしにやってきました話が、桃太郎伝説として残っていますが、この話は朝廷を正義とする見方で描かれています。吉備の豪族からすると、鬼は

朝廷側ですけれどね。」と苦笑されながら話されておりました。立場によって解釈が変わってしまう。これは歴史ばかりではないことを、社会人になってからというものの、日々の生活の中で十分に実感しております。

囲む会と称した旅はここで終わりましたが、今回の話は、とあるインターネットのコミュニティサイトでの偶然がきっかけでした。今後、ひとつひとつの出会いを大切に、その中で各人の成長を確認しあい、自分たちの刺激となるこの囲む会を続けていきたいと思えます。

最近の海外情勢とIERE

麻島 健

(平3年卒・関西支部)

私は現在、IERE(電力研究国際協力機構)で働いています。IEREは、1968年に電気事業のR&D戦略に関する国際的な情報交換の目的で、日本が設立した国際機関です。IEREの最近の活動の一環で、国際会議運営に加えて、発展途上国への技術移転、先進国/途上国の人材育成等に伴う海外出張した際の、最近の海外情勢をご紹介します。

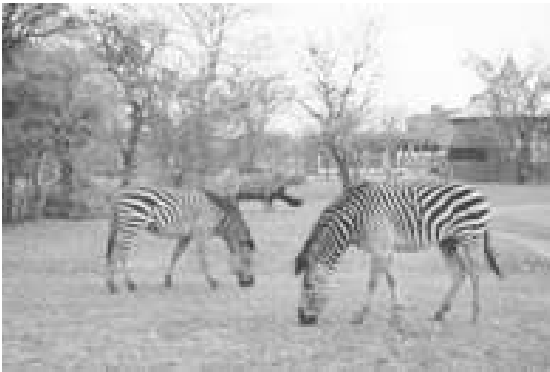
昨年9月末に、アフリカ南部のザンビアのビクトリア・フォールズ(世界の三大瀑布)で、国際会

議を開催しました。テーマは電化でした。アフリカは、国土は中国・欧州・米国を合わせたぐらいの広大で、平均電化率は30%以下です。貧困・エイズ対策と共に、電化は重要な課題でした。途上国の事情として、シングル・ワイヤー

で配電線を設置している箇所があり、IEREでも技術者の人材育成・教育の協力をする事となりました。また、東南アジア等でも技術移転の活動を開始しました。タイ等では、国の発展に伴い電力設備は導入するものの、電力の技術力ではメーカーに依存しているようでした。例えば、事故・障害が起これども、真の原因追求や対策がとられにくい現状のようです。

成長の大きいブラジル(B)、ロシア(R)、インド(I)、中国(C)は、BRICSと呼ばれています。その中で、インドは公用語が英語であり、高等教育を受けられる人数は日本以上です。中国は電力需要の伸びが大きく、かつ国内産の石炭で発電をしているため、CO₂排出が増大しています。中国の最近の電力需要の伸びは、年間1億kW(東京電力+関西電力規模)という莫大なものです。IEREとしてもインド・中国と協力を進める予定です。

最後に、欧州ではEUの規制等で2050年50%前後のCO₂削減に向けて、技術開発や実証プロジェクトを進めています。アメリカ全体でも、新大統領候補含めやっとCO₂削減に関心をもち始めました。北極海等の激減による白熊の危機は、よく引用されています。日本の最先端の省エネ等が海外で導入



されるとともに、日本も、海外で盛んなCO₂回収型化石燃料発電のプロジェクト等の技術開発に遅れないことを願う次第です。



本部だより

本部総会報告

平成20年度本部総会は5月18日(日)、京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホールにおいて、関西支部総会に引き続いて開催されました。本部、支部会員46名の出席がありました。

始めに長尾会長より、改革後の運営も軌道に乗ったこと、今年度から学生会員制度が発足したが、今後教室との連携をさらに密にす

る必要があることなどについて挨拶があり、その後、木村幹事長の司会で議題の審議に入りました。

平成19年度の事業報告ならびに収支決算書(表(1)、(2))について事務局より説明があり、木村幹事長より特別会計の事務委託の経緯について補足説明がなされた後、異議なく承認されました。続いて平成20年度の事業計画ならびに収支予算案(表(3)、表(4))について、事務局より、学生会員制度の発足によって一般会計の「懇話会補助費」を「学生会員補助費」に改め、特別会計の「雑費」(在学生への広報費)を含めたこと、などの説明があり、また、特別会計の賛助会員について幹事長より追加説明があった後、異議なく承認されました。役員の変更については、任期満了に伴う鈴木幹事の退任と、佐藤亨学科長の幹事就任が報告されました。

報告事項としては、幹事長から本部報告、学科長の佐藤幹事より、電気系教室の現況報告がありました。教室の現況報告では、学生会員補助費から支出する予定の「学生の課外活動への補助」についても説明がありました。

推薦会員

(平成20年2月2日承認)
・石井 信教授 システム科学専攻

表(2) 平成19年度収支決算報告書 [特別会計]

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 平成19年度決算額, 備考. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

表(1) 平成19年度収支決算報告書 [一般会計]

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 平成19年度決算額, 備考. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

表(4) 平成20年度収支予算(案) [特別会計]

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 平成19年度決算額, 備考. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

表(3) 平成20年度収支予算(案) [一般会計]

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 平成19年度決算額, 備考. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

「近藤名誉会長の米寿をお祝いする会」
先生は6月1日が誕生日で、丁度満88歳を迎えられました。ささやかなお祝いの会を研究室の昭和33年、34年卒の有志で開催しました。次頁の写真は当日の記念写真で9名の教え子が京懐石「美濃吉」に集いました。田丸啓吉京大名誉教授、大家寛(旧姓吉村)東北大学名誉教授、福井工業大学図書館長、などの面々です。先生の次女の岡田泰江さんも参加して下さいました。先生はかつて大阪電気通信大学学長、理事長をつとめられ、平成6年4月に勲二等旭日重光章を受けておられます。また長く洛友会会長として親しく各支部の総会に足を運んで下さいました。現在も

平成20年5月16日 領収書、帳簿など関係書類を慎重に監査し、収支決算書は適正であると認めます。

署名人 吉田 進 印

平成20年5月8日 領収書、帳簿など関係書類を慎重に監査し、収支決算書は適正であると認めます。

署名人 吉田 進 印



北海道支部総会報告

汰をお詫びし、また変わらぬお元気な様子に接して懐かしさに感無量の思いで、先生の長寿をお祝ひ申し上げました。

(昭33年卒 山本康喬) 記

支部だより

去る5月17日(土) 18時より札幌市内の札幌センチュリーロイヤルホテルにて平成20年度北海道支部総会を開催しました。今年度の出席者は7名と昨年よりも多少増



西院のご自宅で一人暮らしをされている先生を、日常支えておられるのが次女の岡田さんで、伏見区の自宅より毎週2回はお世話に通っておられるこの頃です。先生も健康管理などの点で大変頼りにされておられます。
当日は、近藤名誉会長から大学卒業前後の激動の思い出や、日頃健康維持のために留意されていることとして、食べ過ぎないこと、庭先などを動き回るときは転ばないよう必ずどちらかの手でもものにつかまって細心の注意を払っていることなどを伺いました。
集まった教え子は日頃のご無沙

今年度予算案をご説明し、承認されました。

この後、中山支部長のご発声により、懇親会に移りました。参加者からは2年間国内留学した体験談(昔とは授業の風景が違ってるとのこと)や90歳を越えられても矍鑠としていらっしゃる西村氏のご健康の秘訣など、例年のとおり、近況を報告していただきながら、和やかな時間を過ごしました。予定の時間があつと言う間に過ぎ、最後は記念写真撮影後、出席者の中で最も若い佐野氏に締め乾杯をしていただき、お開きとなりました。

(平元年卒 木元伸一) 記

関西支部総会報告

平成20年5月18日(日)、京都



大学時計台記念館国際交流ホールにおいて、関西支部総会および支部総会が45名の参加を得て開催されました。また、総会に先立ち、「知的メディア 処理技術とその応用」と題して講演会を開催しました。講演会では、奈良先端科学技術大学院大学 木戸出正継教授(昭43卒)より、視覚情報処理や身体情報処理に関する最新の技術についてわかりやすくお話いただき、電気系教室卒業の我々にとつてたいへん興味深い講演会となりました。
支部総会は阿部総務幹事の司会により、午後4時に田中支部長のご挨拶で始まりました。岩城会計幹事から平成19年度事業報告および決算報告があり、続いて平成20年度事業計画ならびに予算編成、平成20年度関西支部役員改選について審議され満場一致で承認されました。平成20年度の新役員は、
支部長 北井 茂(昭44年卒)
副支部長 田村和豊(昭45年卒)
総務幹事 岡崎 徹(昭60年卒)
会計幹事 弘津研一(昭57年卒)の各氏です。
支部総会に引き続き行われた本支部総会の後、懇親会が開催されました。木村磐根先生のご挨拶の後、本日ご参加で最高齢の服部角男様(昭23年卒)に乾杯のご発声をいただきました。平成20年卒の修士



一回生の参加もあり、世代をこえてたいへん楽しい交流の場となりました。懇親会中には北井茂新支部長からスピーチをいただき、今年秋の家族見学会の予定なども紹介されました。終わりに西川禎一先生から締めのご挨拶をいただき、最後に関西支部恒例の「洛友会の歌」を全員で斉唱して散会となりました。

(昭62年卒 内田堅三) 記

中国支部総会報告

平成20年5月29日(木) ANA クラウンプラザホテル広島において第55回目となる平成20年度洛友会中国支部総会が開催されました。総会には本部から木村先生、教室から佐藤先生をお迎えし、中国地方各地から34名の会員のご参

えました。
まず、中山支部長よりご挨拶ならびに洛友会役員会の報告等をお聞きいただきました。
続いて幹事から前年度会計報告、

加をいただき、盛大な総会となりました。

総会は、開会にあたり細田支部長からご挨拶をいただき、引き続き支部事務局から支部会員異動状況、支部活動状況を報告、会計決算、予算案、支部役員の改選案について説明・提案を行い、出席者全員の了承を得て各案が承認されました。

続いて木村先生から洛友会本部の近況について、また、佐藤先生から大学の近況について、それぞれお話しいただき、予定どおり全員の議事を終了しました。

総会終了後、記念撮影を行い、昭和22年卒業の高木先輩のご発声により支部恒例の懇親会を開始しました。支部会員の思い出話、近況報告等々、終始和やかな談笑の中で大いに懇親を深めながら会は

進み、最後は、昭和28年卒業の池内先輩のご発声で支部懇親会をおひらきとしました。

(平8年卒 岩見紀征) 記

四国支部総会報告

平成20年5月30日(金)、昨年と同じく、高松市内の「全日空ホテルクレメント高松」において、第53回洛友会四国支部総会が開催されました。

本部から佐藤亨教授、教室から引原教授の御出席をいただき、四国内からは24名の会員が集まりました。

総会は、武智四国支部長(昭和40年卒)の挨拶で始まりました。ミャンマーのサイクロンや四川大地震など、災害のニュースを耳にすることが多いが、最近千葉であった迷子のオウムが自分の名前と住所を覚えて無事飼い主のもとに届けられたというニュースはほほえましく感じた。殺伐とした話が多くなっているが、いいニュースをたくさん聞くことのできるような世の中になってほしいとのお話がありました。

次に洛友会本部からお越しになった佐藤教授から御挨拶をいただきました。学生会員の創設などの洛友会の運営改革状況についてお話いただくとともに、大学院の教



しました。

その後、富田先輩(昭和23年卒)の乾杯音頭に始まり、先生方や久しぶりの友人と酒を酌み交わしながらの歓談などしているうち、あつという間に予定の時間となり、最後には、恒例となりました「逍遙歌」と「琵琶湖周航の歌」の合唱で懇親会を締めくくりました。

その後、有志一同は同ホテル21階のバーにて、高松の夜景を眺めながら深夜まで親交を深めました。

(平10年卒 宮谷 茂) 記

九州支部総会報告

平成20年5月30日(金)、福岡市天神の福岡国際ホールにて、平成20年度九州支部総会を開催しました。本部から幹事の木村先生をお迎えし、九州支部からは主に福岡在住の会員19名が出席しました。

5月30日(金)当日はまず総会に先立ち、当支部恒例のカクテルパーティーを今年も催しました。このパーティーは、総会開始30分程前から三々五々集まった出席者が、グラスを片手に歓談するというものです。パーティー開始時には出席予定者全員が集まり、互いの近況報告などを話し、総会開始前から早くも盛り上がりつつありました。

続いて、会計・会務報告に移り、4年にわたり支部活動にご尽力いただいた武智支部長が御退任され、四宮支部長(前副支部長)・今岡副支部長の新体制がスタート

総会は深堀支部長の挨拶で始まり、昨年度は予定通りに昼食会、懇親会を行い盛況だったことなどについて述べられました。

引き続き、本部幹事の木村先生からご挨拶をいただき、洛友会本部の動向についてお話を伺いました。

更に、木村先生からは、ご用意頂いた資料を用いて、洛友会の会費納入状況や、京都大学の現況などについてご紹介を頂きました。博士課程の早期育成に関するお話などについて、出席者からも盛んに質問が出て、大いに盛り上がりました。

また、木村先生からの京都大学の現況紹介に関連し出席者から発言された中で特に多かったのが、近年の学生の学力低下傾向を憂い、日本をリードする京都大学の卒業



生である洛友会会員が頑張らなければならぬ、という声でした。

その後、石井幹事、岡崎会計幹事から平成19年度活動実績・会計の報告及び平成20年度活動計画の説明を行い、満場一致で承認されました。

懇親会は、増岡先輩(昭和21年卒)の乾杯の音頭で始まり、参加者全員酒を酌み交わしながら、終始和やかな雰囲気、昔話や近況報告などに花を咲かせました。

また、懇親会の中で、参加者にマイクを回し一言ずつお言葉を頂きましたが、皆様のお話からさまざまな仕事、趣味などに活動的に取り組まれることが伺えました。楽しいひとときもあつという間に過ぎ、深堀支部長の音頭により懇親会を締めくくり、最後に全員で記念撮影をしてお開きとなりました。

(平8年卒 岡崎幸治) 記

北陸支部総会報告

平成二十年六月七日(土) 福井市の「開花亭」において、平成二十年度北陸支部総会を開催いたしました。本部から長尾真会長、教室から黒橋禎夫教授をお迎えし、合計十八名が出席いたしました。

今年も昨年に引き続き、支部総会前に講演会を開催いたしました。



今年度は黒橋教授に「計算機による言語の理解をめざして」と題し、ご講演をいただきました。近未来に実現が予想される計算機の性能向上などによる精度の高い自動翻訳、膨大な情報量の中からの効率的な情報検索について、具体例を示しながら、わかりやすくご説明いただき、出席者の様々な質問・疑問にも丁寧にご対応いただきました。

支部総会では、冒頭、松木支部長からご挨拶いただき、開催箇所である福井に関する印象をお話されました。その後、幹事より松木支部長が電気学会総会において、電気学術振興賞著作賞および論文賞を受賞されたことが紹介されました。

次に長尾会長よりご挨拶があり、幼少の頃、福井県織田町に住

んでおられたことを懐かしく語られました。続けて、本部における平成十九年度の事業報告および収支決算、ならびに平成二十年年度の事業計画および収支予算についてお話があり、広報誌cueの発行についても触られました。また、会費納入状況の推移や学生会員の加入についてご紹介がありました。

引き続き、黒橋教授より電気系教室の近況についてお話があり、桂キャンパスへの移転状況、および電気系の松本紘理事(昭和40年電子卒)が次期総長に選任されたうれしいお知らせを含めた教員の方々の異動状況や、卒業生の進路の状況についてご説明をいただきました。大学院進学に関しては、今年度より博士課程前後期連携教育プログラムが電気電子工学専攻で開始されたことをご紹介いただきました。

最後に、支部幹事から支部近況報告、会計報告に関する議案を説明し、ご承認をいただきました。総会終了後の懇親会では、先生方や先輩・後輩、あるいは旧友と酒を酌み交わして歓談し、楽しいひと時を過ごしました。最後に琵琶湖周航の歌と逍遙の歌を合唱し、松木支部長ご発声のもと、万歳で散会となりました。

(平5年卒 林 正則) 記

第89回関西支部 ゴルフ競技会報告

第89回関西支部ゴルフ競技会が平成20年5月17日(土) 武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。

当日は晴天に恵まれ、アウトは福川氏(昭和30年卒)、インは西村氏(昭和34年卒)の始球式でプレイを開始し、合計18名(内、シニア8名)が競技に汗を流されました。



結果は次の通りです。

- (シニアの部)
- 優勝 西村 登努志 (S38年卒)
- 2位 三谷 鐵男 (S38年卒)
- 3位 伊藤 俊一 (S34年卒)
- (一般の部)

- 優勝 中村 勤 (S46年卒)
 - 2位 亀山 卓郎 (S42年卒)
 - 3位 美濃 由明 (S56年卒)
- △第90回競技会のご案内▽
平成20年10月18日(土)
於 武庫ノ台ゴルフコース
若い方も含めて、多数のご参加をお待ちしております。

△連絡先▽
関西電力
三浦 良隆 (S55年卒)
江木 利昭 (H13年卒)
050・7104・0941
egiroshaki@a3.kepoco.jp



訃報

講昭11	広瀬 恒雄
講昭11	松尾 利康
講昭12	森本 貞治
昭13	山本 健
昭17	足立 正次
昭17	江見 耕平
昭25	高橋久二郎
昭41	上林 力
	20・2・7

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。